

《札幌地方推進委員会優秀賞》



「地域みんなで見守り育てる社会づくり」

稲積小学校 6年 朝野 潤

ぼくの曾祖母や祖母が犯罪などのニュースを見ているときによく「昔はね、ご近所さんや同じ町内会の人みんなで子供をしつけたものなんだよ。悪いことをしたら、よそ様の子であったってその場でよく叱ったもんさ。最近なら近所の子だって顔や名前を知らなかったりするもんね。ましてや近所のおばさんが叱るなんて。そんな光景は見なくなったね。」と言っています。

具体的には、昔近所に住んでいた学生服を着ていた子たちがタバコを吸っていたそうです。

その時その場を見た曾祖母が、自分の子ではなかったけれど、注意をしてやめさせたそうです。なぜタバコを子供が吸ってはいけないかを教えやめさせたそうです。素直に話を聞いて反省していたと聞きました。

ぼくはその話を聞いた時に、今なら近所の子たちがタバコを吸っていたり、良くないことをしていた時に叱ったり、教育してもらえる環境があるのだろうか、と思いました。何か良くないことをして叱ってもらえるのは、日頃から交流や付き合いがあったりして、その子のことを思うからできることで、関係性がなければ、その子のことを思って嫌われるであろうこと、トラブルになるかもしれないことをするだろうか、と考えました。

いつかのニュースで、何か良くないことをした人を注意した人が反対に危害を加えられた、という話を聞いたこともあります。もしかすると、そんなことも恐れて「見て見ぬふり」で知らなかったことにしてしまう場合もあるのかもしれません。今は昔と違って、近所の大人が皆でその地域の子を育てるなどということは聞かない時代になっている気がします。曾祖母や祖母が言っているような光景はあまり見たこ